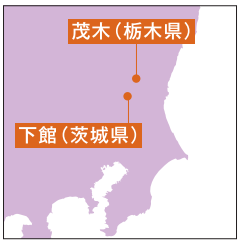
写真提供：芳賀地区広域行政事務組合

シリーズ 探訪・探究

訪れたいまち

第11回

真岡線沿線地域
下館～茂木（茨城県・栃木県）



「SLもおか」は、真岡線沿線のイメージアップ、観光振興推進のため、長い時を経て、復活。愛されるその勇姿を見ようと、夏のある一日、真岡線を訪れてみました。

真岡線 その歴史

「ボォ――、ボォ――」

ここは、茨城県筑西市にある下館駅。真岡鐵道の始発駅だ。SLもおか、「C12型」が、迫力ある汽笛をあげながら、今、まさに入線する。映像で聞くのと違う、直の汽笛は、なんとダイナミックなのか。しかし、驚くのはこればかりでない。重厚な汽笛が鳴り響く度、「かっこいい～」と女性グループから歓声が上がる。

「すごいよね！　これがSLだよ」

子どもよりお父さんの方が興奮している。熱心に何枚もの写真を撮る男性。うだるような炎天下をものともせず、沢山の人々が、黒く輝くSLに熱い視線を送っている。

真岡線の歴史は古い。明治45年に官営鉄道「真岡軽便線」として開通したのが始まり。大正9年には現在の終点である茂木まで全通。2市4町を結ぶ総延長41㎞。来年には真岡線開業100年を迎える。

しかしこの間、平穏な事ばかりではなかった。自動車の普及、社会構造の変化に伴い、輸送人員が減少。昭和59年の国鉄の分割民営化に伴い廃止対象路線とされてしまう。

「沿線には、800人もの高校生がいる。代替輸送としてバスではとても無理な状況でした」

真岡鐵道の専務取締役・馬場氏が当時を振り返る。県や沿線住民の廃線反対運動、存続のための乗車運動などが展開。この強い意向が実を結び、第三セクター（※1）として、鉄道路線の存続が決定。昭和62年に真岡鐵道株式会社を設立、翌63年には運行を開始した。

沿線の見どころを訪ねて

下館を出発すると、車窓に黒煙が流れる。同時に、石炭の匂い。考えてみれば、当然のことなのだが、実際に乗

右／真岡鐵道 専務取締役の馬場照夫さん。左／取締役 事業部長の竹村 高さん。現在の体制を築き上げるまでの苦難を微塵も感じさせない、柔和なお人柄のお二人。社会環境の変化による利用者減にどう対応していくかが課題と話す。市内の公園にある静態展示されているSLも活用し、沿線地域の活性化を目指す。

SLを模した真岡駅舎。中には、SLグッズの売店もあり、ファンが熱心にのぞき込む。

車して初めて感じる。

緑まぶしい田園風景の中、こちらを見て手を振る子ども達。乗客もそれに応える。会話もはずみ、みんなの笑顔がいっぱいだ。

ところで、SLに乗ると同時に、乗客には別の楽しみもあるようだ。なぜならこの沿線には、さまざまな観光スポットが散りばめられている。数々の史跡、伝統文化を訪ね歩く散策コース、駅舎がSLを模している真岡駅。また、陶芸の町、益子でろくろを回す。数々のレースを開催する国際的サーキットがある「ツインリンクもてぎ」。モータースポーツを観戦するほかに、子どもにも楽しい乗り物が充実している。

さて、和やかな約80分の旅も終わり、終点の茂木駅に到着。しかし、人々はなかなかホームを離れない。次の走行に備え、SLを反転させる〝見せ場〟があるのだ。どっと歓声がわく。

真夏日にもかかわらず、始発駅・下館駅にはSLの入線を待つ人々でいっぱい。真剣なまなざしでカメラを構える。

こうして最後まで、SLは私達を楽しませてくれた。

SLの復活「地域の宝」として

実は、真岡線には昭和45年までSLが走っていた。今になってなぜ、復活しようと考えたのだろうか。

馬場氏は語る。

「真岡線は、ただ、存続すればいいというわけではありません。地域住民の足として守り育む。それには、SLの豪快な走りを通して、21世紀を担う子ども達に夢とロマンを与え、同時に沿線地域の活性を図ることを考えました」

こうして、平成2年より、真岡市において、SL復活の第一歩が始まった。展示されているSLを日本全国のみならず、海外まで探し回った。しかし、保存している自治体が見つかっても、地元市民の愛着が深く、なかなか良い返事が返ってこない。交渉は難航したが、とうとう、情熱をくみ取ってくれた福島県川俣町から、真岡線を走行していたものと同型の「C12型」を譲り受けた。長い時を経て眠りについていたSLに再び生命を吹き込むために、JR東日本大宮工場で、復元作業を開始。それには1年と2カ月もの年月を要したという。

その後、SLの運行を支援するため、「真岡線SL運行協議会」(※2)が設置され、真岡鐵道はここからの委託

左／SL教室、上／SLガイド体験。子ども達の目が輝く。
写真提供：芳賀地区広域行政事務組合

SL運行の事業主体である芳賀地区広域行政事務組合の皆さん。左より、間宵嘉明主査、中山文行事務局長補佐、浅川 健主事。沿線のイメージアップと広域的な観光振興を図るため、SL列車の通年運行、誘客活動の展開に尽力されている。魅力的なイベントを作り上げる企画力はお見事。

「SLハロウィン号」では毎年、趣向をこらした装いの乗客が集う。到着までに、優勝者を決める。さて、今年は、どんな仮装が飛び出すか?
写真提供：芳賀地区広域行政事務組合

SLもおかを、整備面から支える湯浅陽三課長。SL歴30年を超えるエキスパート。蒸気の具合など、SLの少しの不調も見逃さない鋭い眼光。しかし、少年の頃からSLが大好きでたまらなかったと笑顔で話してくれた。部品一つひとつの整備に愛情を込めて接している。

を受けて、平成6年から運行を開始。C12型、別名「川俣号」が再デビューを果たした。また、平成10年には、新潟県水原町（現阿賀野市）から、C11型「水原号」を譲り受けた。現在、全国で運行しているSL16両のうち、2両が真岡線で走っている。

「勇壮なSLを見て楽しむのもいいですが、実際にSLに触れ、学ぶといったイベントも毎年開催しています」

芳賀地区広域行政事務組合の事務局長補佐、中山氏は語る。

SL各部の名称や動く仕組みなどを学ぶ教室では、全国から集うボランティアが、深い知識を披露してくれるそうだ。また、昨年行ったSLフェスタでは、撮影会、投炭体験や車内清掃といった豊富な内容で、300人もの人々が集まったという。

例年11月に開催される駅前コンサートも素晴らしい。5カ所の駅で、SLの到着に合わせ、鉄道に関する楽曲を奏でる。地元からの提案で、小、中、高校生が吹奏楽の編成バンドを組んだ。こんなおもてなしを受けたら、どんなに感動することだろうか！

沿線自治体の観光資源とSLとのコラボレーションによって、各々の地域の見どころに、ぶらりと立ち寄ってもらえるような趣向を常に考え続けていると言う。

SL内で販売している駅弁。汽車の中で食べると、その美味しさもひときわ。

沿線地域の高校生の清掃活動。車内清掃や、駅舎の手入れ、草むしりも行う。老人会、子供会など、さまざまな人々の力で、真岡線は支えられている。
写真提供：芳賀地区広域行政事務組合

「SLとは昭和の時代のシンボルだと私は思っています。戦前戦後を経て、日本経済の復興を支えてきた。それを、産業遺産として次の世代の子ども達に引き継いでいくことに重要な意義があると考えています」

馬場氏の強い信念が伝わってくる。

SLもおかの復活。今回は、その舞台裏で、様々な形でSLを愛し、真岡線を支える人々の強い絆を感じることができた。

日本の経済や産業の躍進のため働いてきたSLは、時代が変わり、今は人々の夢や希望を運んでいる。下館から茂木までの沿線地域、そして住民を一つにつなぐ。その使命を持って、力強い汽笛を鳴らし続ける。

それは、同時に私達にもエールを送ってくれているように聞こえる。

心を一つに、がんばろうと。

※1 国や地方公共団体と民間が共同出資して設立する事業体。
※2 筑西市、真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、芳賀地区広域行政事務組合で構成される。

真岡線 沿線 MAP

●「SLもおか」情報

SL は土日運行です（イベントなど特別な場合を除く）。下記ホームページでは沿線の観光案内、お奨め散策ルート、イベント案内など、楽しい情報を随時ご紹介しています。

真岡鐵道 HP
http://www.city.moka.tochigi.jp/mokasl/

芳賀地区広域行政事務組合 HP
http://hagakouiki.jp/

●お問い合わせ先

真岡鐵道株式会社
栃木県真岡市台町 2474-1　TEL. 0285-84-2911

芳賀地区広域行政事務組合
栃木県真岡市下籠谷 4412 番地　TEL. 0285-82-9151

CLOSE UP

MLIT レポート

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介します。

Reporter
関東運輸局
鉄道部 監理課
篠崎 修也

10月14日は、「鉄道の日」です。みなさん、ご存知でしたか?

明治5年（1872年）10月14日に新橋・横浜間に日本初の鉄道が開通したことを記念して、平成6年に「鉄道の日」として制定され、毎年この日を中心に全国で鉄道フェスティバルや、イベントが開催されています。

関東においても「鉄道の日」関東実行委員会（関東運輸局、横浜市、各鉄道事業者などで構成）で、「鉄道の日」記念イベント“YOKOHAMAトレインフェスティバル”を毎年開催しています。

当実行委員会では、平成9年～平成12年に記念事業の一環として、利用者の皆さんから自慢の駅を推薦していただき、「関東の駅百選」を選定しております。

今回の真岡鐵道線からは、駅舎が巨大なSLの形をした真岡駅と、焼き物の街・益子に配慮した瓦屋根の益子駅が選ばれています。このほか、関東各地の歴史を物語る駅やユニークなデザインの駅、図書館・ホール・温泉など公共的施設を備えた多目的な駅など特色のある駅が盛りだくさんです。

現在は「関東の鉄道お宝発見」フォトラリー・フォトコンテストを記念事業の一環で実施しています。これは関東各地の鉄道にまつわる23のお宝を選定し、その対象となるお宝を撮影してフォトラリー帳に貼っていくというもので、今年で3回目を迎えている人気の催しです。

皆さんもぜひ、カメラ片手にのんびりと“お宝探し”や“百選巡り”に出かけてみてはいかがですか?

《栃木県の「関東の駅百選」》

- ■真岡鐵道線：真岡駅、益子駅
- ■JR両毛線：足利駅、佐野駅
- ■JR日光線：日光駅
- ■東武日光線：東武日光駅（かみみ）
- ■野岩鉄道会津鬼怒川線：上三依塩原温泉口駅（よりしおばら）

真岡駅　写真提供：真岡鐵道株式会社

「関東の駅百選」
http://wwwtb.mlit.go.jp/kanto/tetudou/station100/index.html

第二回
「関東の鉄道お宝発見」フォトコンテスト
最優秀作品

「高積雲はひつじ雲」　山川健一（東京都）
撮影場所：上信電鉄 南高崎～根小屋

「関東の鉄道お宝発見」フォトラリー・フォトコンテスト
http://wwwtb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1105/rk_p110527.pdf